

Event

半島イベント

展海峰菜の花ウォーク開催！

俵ヶ浦半島のおいしいもの食堂もチャレンジ第2弾

2017年3月26日(日)

9:30 展海峰ふれあい工房前駐車場集合

毎年恒例となった人気の「展海峰 菜の花ウォーク」。今回は、花々を楽しむ新コースでのウォーキングやぜんざいの振る舞い、各町の手料理に加えて、前回のコスモスウォークで好評を得た俵ヶ浦半島のおいしいもの食堂も春メニューにチャレンジ!お楽しみに。



1

「俵ヶ浦半島トレイル」を生かした新コース。

菜の花満開の展海峰から「俵ヶ浦半島トレイル」のコースを取り入れた新コースをご案内します。新コースのご案内にあたっては、ボランティアを募って事前にトレイルコースの整備や草払い、ナイスビューポイントにベンチを設置するなどの作業を行います。

2

とれたての地元産品や地元食材を使った軽食・飲料・お菓子の販売。

ゴール後の展海峰園内は、恒例の手作りのぜんざいのふるまいや各町の手作り料理に加えて、「俵ヶ浦半島のおいしいもの食堂」が限定オープン。地元の食材を使った軽食や飲料、スイーツなど、当日限定のご当地ものを販売します。地元の皆さんのチャレンジも受付中。詳しくは「Needed」の欄をご確認ください。

Needed

お助け掲示板

おいしいもの食堂の出店者・食材提供者募集

今年3月の菜の花ウォーク時に展海峰園内に1日限定オープンする「俵ヶ浦半島 おいしいもの食堂」では、春の新メニューをただいま準備中。食材の提供や地元食材による加工品の商品開発、当日の出店・地元産品の販売など、参加を希望される地元の方々のご連絡をお待ちしています！



提供先
チーム俵 事務局
080-5206-9506
担当: 富田

俵ヶ浦半島若者会議「ぼうじょご」参加者募集

今年から本格的にスタートする俵ヶ浦半島の活性化事業に向けて、10年後を担う若者(55歳まで)の自由な意見交換の場をつくらうと、4町を横断する緩やかな若者会議「ぼうじょご」が発足。「つくも苑や学校の跡はどうなるの?」「自分の考えを形にしたい」「若い世代で何かやってみよう」...そんな想いをお持ちの方、まずはご一報ください。気軽に話すこと、聞くことから始めてみませんか?



連絡先
090-8669-9453
発起人代表:
森宗 幸彦

俵ヶ浦半島TIMES VOL.4

発行日 / 2017年1月23日

発行 / 俵ヶ浦半島開発協議会 会長 尾崎 嘉弘

企画編集 / (株)ルーツアンドパートナーズ 佐藤 直之、TMTY 富田 柚香子、竹林知樹スタジオ 竹林 知樹

協力 / 佐世保市政経営課、都市政策課、(公財)佐世保観光コンベンション協会

制作 / (株)ルーツアンドパートナーズ、(株)NO PLANNING、深澤デザイン

撮影協力 / 渋谷 香奈、相良 利博

問合せ / 俵ヶ浦半島開発協議会(TEL:080-5206-9506(富田))

Vol. 4 2017.1

未来へつなぐ半島時間。

俵ヶ浦半島

Tawaragaura Peninsula

TIMES

News

半島の旬をお届け

俵ヶ浦半島の活性化を担うまちづくり組織「チーム俵」発足！

2016年12月12日、俵浦小学校体育館で「第2回俵ヶ浦半島ミーティング」を開催。地元の方はもちろん、市内、市外からも参加があり、約50名の方々が集まりました。今回のミーティングでは、前回に語り合った「10年後の未来」を実現するための具体的な事業アイデアや事業を進めるための組織・人材について意見を出し合いました。これまで議論した内容を踏まえ、今年から具体的な活性化事業を進めるためのまちづくり組織「チーム俵」を発足します。チーム俵では、地元の関心度・必要性が高い5つの事業テーマをもとに、ワイワイ楽しんで参加できる「部活」を結成するほか、部活間の情報共有・連携を図るネットワーク会議を設置。また、地域内外の関係機関やサポーターとの連携体制も作り、まちづくりに共に汗を流す仲間を増やしていきます。まずは地元の方々から有志を募ります。お気軽にご参加ください(ミーティングの内容及び部活の詳細は中面を参照)。



「5つの部活」に分かれて語り合った事業アイデアの数々。

第2回半島ミーティングでは、前述した地元への関心度・必要性が高い事業テーマをもとに、その事業を担う組織を視野に入れた5つの部活「ご当地部」「トレイル部」「住まい部」「学校部」「宣伝部」に分かれて、具体的な事業アイデアを議論しました。車座になってワイワイ・ワクワク。各部活の概要と事業アイデアの一例をご紹介します。



ご当地部

地域資源や食材を生かして、俵ヶ浦半島ならではの魅力・商品づくりを行います。具体的には、展海峰売店のリニューアルや半島食材のブランド化、加工品・特産品の開発、郷土料理の継承、その他観光商品づくりに取り組みます。

展海峰売店リニューアルに関する事業アイデアの一例

動線に合わせた立地の見直し。陳列方法・POP・照明の工夫。地元の食べ方レシピ、生産者情報。加工品の開発・販売。半島野菜のブランド化。野崎寿司弁当の販売。運営の仕組み。つくも苑跡地への地域参加。



住まい部

人口減少・少子高齢化を解決するため、空家を活用した移住・定住・起業支援を行います。具体的には、空家物件の把握・活用・改修・情報発信、子育て支援、起業支援、耕作放棄地の活用などに取り組みます。

移住促進・空家活用に関する事業アイデアの一例

空き家物件の把握。住まいや仕事、トイレなど移住者の希望や課題を把握して情報発信。移住希望者と地域との繋がり。農地や畑を貸農園に。空き家を活用した集会場、体験宿泊施設、図書館、子育て支援施設。お試し居住と農園体験セットに。



学校部

閉校する3つの小中学校の活用や子供と地域の交流づくりを行います(俵浦小、庵浦小、野崎中)。地域の活動・交流拠点、環境教育、合宿誘致、トレイル拠点、生産加工場など、活用方法は多数考えられます。

学校活用に関する事業アイデアの一例

学校活用事例の勉強会開催。アイデアの募集。様々な用途・活動が共存する「ごちゃまぜ」の形態。木工ギャラリー。古本図書館。部活の練習場所。農業・福祉の新たな学校。3校活用の連絡調整を図る体制づくり。



宣伝部

俵ヶ浦半島の様々な魅力を発信して、宣伝します。具体的には、地域で受け継がれる歴史やお祭り、食材、景色、自然、人など、半島の魅力を冊子やインターネットを通じて発信し、観光や移住に繋げるのが狙いです。

半島のPRに関する事業アイデアの一例

「季節」と「食べ物」に関心を持ってもらう。景色で人を呼び込む。船の出入りの情報や伝統行事、九十九島かきなど、半島ならではの魅力を発信。口コミ、ホームページ、SNS、動画の活用。地域と外との交流。



トレイル部

これまで4町で作成したトレイルの活用・整備・商品づくりを行います。具体的には、ウォーキングイベントの開催やトレイルのPR・観光商品化、眺望確保、ルート整備、歴史遺産・公園活用、滞在拠点づくりなどに取り組みます。

トレイル活用・観光集客に関する事業アイデアの一例

4町全体でのコースづくり。新コースの整備。イベントの定期開催。眺望ポイントの伐採・植樹。休憩所・駐車場・トイレ・サインの設置。昼食・土産付き参加費で収益化。農水産物の販売。収益を整備に回す仕組み。



Topics

半島の気になる話題

PICK UP 1

「つくも苑」跡地の自然景観を生かした観光公園化に向けて。

今夏以来、俵ヶ浦半島開発協議会では、野崎町に位置する「つくも苑」跡地について、工業団地造成の計画から、これまでの半島ミーティングなど半島振興計画づくりの議論を尊重した活用へと方針転換ができないか佐世保市へ相談をしてきました。そして、このたび佐世保市から示された右図の観光公園整備案について、私たちも同意し、昨日、長崎県に対して正式に申し入れを行いました。つくも苑開発以前に元々あった眺望の開けた丘陵地形の再生により、九十九島や、港を行き交う船、針尾無線塔等の大パノラマを望める多目的利用の場の創出が今回の整備案のポイントとなっています。また、つくも苑跡地は、俵ヶ浦半島の玄関口に位置し、展海峰や花の森公園との一体的な観光活用が実現すれば、半島の観光的魅力は一気に高まります。つくも苑跡地活用は、半島の将来を占う事業であることから、今後の期待される正式な方針転換後も、地元として振興計画やこれから取り組む活性化事業と連携を図り、関わり続けていくことが大切

です。そのためには、今回発足したチーム俵や各部の事業を通して地元としてできることを増やし、1つずつ成果を出していくことが道を拓きます。地元が一丸となって取り組みを進めていきましょう！



「丘」をコンセプトにした観光公園のイメージ

PICK UP 2

チーム俵・部活のキックオフ会議を開催します。体験入部も歓迎！

2017年2月7日(火)19:30～庵浦町公民館で開催。

第2回の半島ミーティングでお披露目となったチーム俵の5つの部活(ご当地部、トレイル部、住まい部、学校部、宣伝部)。今年からはそれぞれの部活が中心となって、具体的な事業を進めていきたいと考えています。そこでまずは、体験入部も兼ねた部活のキックオフミーティングを開催いたします。どの部活に入るか決まらなくても、とりあえず雰囲気を見に来てください。「気軽に楽しく、できることから」がモットーの部活です。知人・友人とお誘い合わせてお越しください。



PICK UP 3

移住先進地・福岡県津屋崎に学ぶ移住勉強会の開催決定！

2017年3月15日(水)19:30～野崎町公民館で開催。

全国では、地域の特徴・個性を生かして移住受入れに成功している事例が誕生しています。その移住先進地の1つ、福岡県津屋崎市津屋崎で自ら移住して「暮らしの間屋」という不動産業を立ち上げ、移住のコーディネートを担う古橋範朗さんを講師にお招きし、俵ヶ浦半島移住の実現に向けた事業アイデア・ヒントを探ります。どなたでも聴講可能・無料です。

講師プロフィール

古橋 範朗(ふるはし のりあき)
1982年、京都生まれ。立命館アジア太平洋大学卒業後に上京。ベンチャーの不動産会社を経て、西国分寺の「クルミドコーヒー」にオープンスタッフとして参画。カフェによって町に化学反応が起こっていく過程を目の当たりにする。2013年1月、結婚を機に、福岡県津屋崎市にある港町、津屋崎に移住。2013年8月に株式会社群道設立。家や地域と共にある「人の暮らし」を大切に不動産業「暮らしの間屋」を立ち上げる。

